

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターさぎの宮担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 9 月 10 日（水） 9 時 30 分 ～ 11 時 30 分
2 開催場所	浜松市総合産業展示館北館3階 5号会議室
3 参加者	25名 委員 12名（長上地区：5名、笠井地区：7名）、関係機関 10名、事務局 3名
4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 前回の振り返り 配布資料に基づき、事務局より前回の協議体の振り返りを行った。 【主な意見・質問等】 特になし。</p> <p>3. 情報提供 笠井地区社会福祉協議会「生活支援 笠井だるま会」付添い支援について 配布資料に基づき、事務局より情報提供を行った。 【主な意見・質問等】 特になし。</p> <p>4. 協議事項 テーマ:地域の状況や実態を踏まえた今後の取り組みについて</p> <p>協議① 地区混合グループ</p> <p>1. 情報提供を踏まえて感じたこと、気づいたこと</p> <p>2. (改めて)各地区で話題になっている課題やテーマ</p> <p>【主な意見・質問等】</p> <p>〈Aグループ〉</p> <p>■外出(付添い)支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出(付添い)支援は、どこの地区でも重要な課題ではないかと思われる。その中で、民間企業の移動サービス専用自動車保険や、法制度の改正など実施に向けたハードルは低くなってきているように感じる。 ・笠井地区の付添い支援の取り組みは大変すばらしい活動だと考える。長上地区でもニーズ調査や現状分析の取り組みから始められると良いのではないかと感じた。 ・バス路線のことなどもあって、困っている人は多くいるという実感がずっとあった。それを踏まえ、付添い支援が立ち上がるまでを振り返ってみると、長かった、やっと立ち上がった

という印象がある。

■担い手不足の課題について

- ・取材した運転ボランティアの方は 80 歳であったが、やはり担い手の高齢化が進んでいると感じる。背景には、定年も延びる中でこれまで地域活動を担ってきた層が活動を担えるような環境ではなくなっているように感じる。自身が自治会長を引き受けた当時と現在を比較してみても、自治会長を引き受ける方やその方の状況も変わってきているように感じる。
- ・地域の様々な団体も、担い手不足や高齢化から弱体化しつつあり、今後も進んでいくと思われる。

■移動スーパーについて

- ・移動スーパーについては、自身の町では公会堂に来てくれているが、近隣に社会福祉施設があった。その施設にも周知したところ、施設の利用者も来てくれるようになった。
- ・自身の町でも移動スーパーが来てくれているが、利用者の様子を見ると、日用品など買う物に傾向があるように感じる。買い物支援を考えると、移動スーパーだけではなく、付添い支援もあることで、様々な需要に応えられるのではないかとと思われる。

■交流について

- ・協議体もそうであるが、様々な人と顔を合わせ、様々な地域の取り組みについて情報収集できるような機会は大切であると思われる。
- ・自治会の活動に中学生が関わってくれることがあり、高齢者では時間がかかる作業も手際よく対応してくれた。地域の活動を知ってもらう機会にもなるため、もっと様々な場面で関わりが作れたら良いのではないかと感じた。

〈Bグループ〉

■外出(付添い)支援について

- ・立ち上げに向けて話し合いを始めたばかりの頃は、反対意見も多かった。非難の声も一つの意見として捉え、少しずつ説得していった。
- ・付添い支援を必要としている方がどのエリアにどの程度いるかを把握できていないため、民生委員と協力しながら把握していきたいと考えている。
- ・長上地区は、外出支援の依頼があった場合、タクシーを利用している。また、昨年度に比べて外出支援の依頼が増えていると感じる。

■その他

- ・買い物や病院の付添いを親族に頼める状況であっても、気を遣ってしまうことがある。そのため、時と場合に応じて、親族に頼んだり地域たすけあい支援事業を利用したりする人もいる。
- ・民生委員や地域包括支援センターから依頼される支援の中には、家族間の関係性がデリケートな場合がある。そのため、前もって情報を共有してもらう必要があると感じる。特に、専門職からの依頼時には、利用者のフェイスシートを共有してほしいと感じる。

〈Gグループ〉

■地域たすけあい支援事業について

- ・笠井地区では、地域たすけあい支援事業の実施に至るまでに3年を要した。取りまとめ役の選定に始まり、実施に必要な知識の勉強会を行うところからのスタートであった。地区社協単独での立ち上げは困難であったと感じる。特に、ニーズ調査の面で民児協の協力が得られたことは大きかったと感じる。
- ・地域たすけあい支援事業を実施するにあたっては、地域の実態を把握することが重要であると感じる。併せて、定期的に組織体制等を見直すことも必要であると思われる。

■担い手不足の課題について

- ・取り組みを立ち上げることも重要であるが、継続していくことはさらに難しいと感じる。継続していくには、取り組みに関わる人材の確保が欠かせず、地域活動に携わっていない人（いわゆる無関心層）へのアプローチも必要であると考ええる。

■笠井地区の住民懇談会について

- ・参加者は各団体において役職を担っている方が多かった。昨年度は、30代の方にも参加していただくことができた。
- ・内容については、見直す時期にきていると考える。

協議② 地区別グループ

1. 協議①で挙げられた内容についての意見交換
2. 今後考えられる取り組み

【主な意見・質問等】

〈長上地区〉

- ・10月にボランティア養成講座を開催する予定だが、回覧板で周知しても参加者は増えないと思われるため、個別に声かけすることが効果的だと思われる。ボランティアを引き受けてもらうための声かけを行うのではなく、まずは講座に参加してもらえそうな声かけを行うことが大切だと感じる。
- ・民生委員に自治会活動への参加を依頼している。地域住民に民生委員の顔と名前を知ってもらうことが大切だと感じる。
- ・8月に開催した福祉講演会に約90名が参加してくれた。このような地域住民が集まる機会に担い手確保のためのPRができるとよいのではないかと感じる。
- ・長上協働センターでは、子どもの居場所づくり活動を行っており、中高生のボランティアを積極的に受け入れている。学校に直接依頼するなどしてボランティアを集め、学生と顔を

合わせるきっかけをつくっていくことが必要だと感じる。

〈笠井地区〉

- ・地域住民からの依頼受付では、利用回数が多く、慣れた方は留守番電話に依頼内容を残されることが多い。ただし、金曜日に入った留守番電話が翌週月曜日の付添い支援の依頼であった例もあり、調整機関が短かったため対応に苦慮した。
- ・草取りの依頼が多いが、実際に現地を確認するとそれほど生えていない場合もある。そのようなケースでは、少し草が伸びるたびに依頼があり、短い周期で繰り返される。
- ・高齢者夫婦世帯からの依頼の中には、詳しく状況を聞いていくと夫がジムに通っているなど、体力的に世帯内で解決できるのではないかと思われるケースがあった。
- ・病院の付添い支援では、待ち時間によって料金差が生じやすい。自宅と病院は近距離でも待ち時間が長いと利用料が高額になる事例があった。また、付添い支援の際に病院の待ち時間を事前に予測することは難しいが、このような要望も寄せられている。

5. その他

令和7年度 長上・笠井地区生活支援体制づくり協議体(第3回)について

【協議結果】

日時：令和7年12月19日(金)10時00分から12時00分まで

場所：長上協働センター2階 講座室

6. 閉会

5 今後の見通し・ 必要な対応

今回は、前回の協議体で【今年度の取り組み】として掲げた①他地域の取り組みや各回開催時の話題等に関する情報提供・意見交換、②既存の取り組みの振り返りや今後必要な取り組みについての意見交換、④各回の内容に応じた協議方法の実施を意識して協議を行うことができた。

具体的には、「生活支援 笠井だるま会」付添い支援の情報提供やそれを踏まえた意見交換、地域たすけあい支援事業における活動の振り返り、今後考えられる取り組みの意見交換を行った。

意見交換の結果、各地区共通の話題として活動の担い手不足について挙げられたため、今後それぞれの地区で解決策を検討していけるとよいのではないかと思われる。また、次回の協議体では【今年度の取り組み】の③各町など細かなエリアにも着目した協議の実施を意識した協議を行っていきたい。